

学習状況診断票(社会) 小学校 第5学年

5年 組 番 名前

領域	問題番号			出題のねらい	評価の観点		
	大問	小問	通番		思考・判断	観察・資料活用・表現	知識・理解
わたしたちの生活と食料生産	1	1	1	日本の都道府県について、その都道府県名とともに都道府県の場所がわかっており、特に岐阜県の位置について、白地図上で示すことができる。			
		2	2	表に示された具体的な数値を基に、正確に棒グラフを作成することができる。			
		3	3	日本の食生活を支えている食料は、国内で生産されたものだけでなく、外国からの輸入にも依存していることを考えることができる。			
		4	4	日本の食料生産にかかわって、特に自給率が低下していることが大きな問題であることを考えることができる。			
		5(1)	5	ちぎめて書いてある地図ではわからない本当のきよりを、「しゅくしゃく」を活用して正しくとらえることができる。			
		5(2)	6	稲作農家において、安心・安全な米の生産のために、たい肥を利用し、農薬をできる限り減らそうとする農家の人の努力や工夫がわかっている。			
		6(1)	7	野菜、果物、畜産物、水産物など、さまざまな食料生産によって国民の食料生活が支えられていることや、その大まかな特色がわかっている。			
		6(2)	8	日本の水産物の現状を理解する中で、主な水産物の漁獲量や主な漁港、漁場、漁法がわかっている。			
わたしたちの生活と工業生産	2	1	9	自動車工場では、製造過程においてロボットを使うことで作業効率を高めていることがわかっている。			
		2	10	自動車工場における生産工程をあらわしている写真とその様子を結び付けることができる。			
		3	11	完成した部品や自動車が、トラックや鉄道を利用して自動車工場や消費者のもとへ届けられることがわかっている。			
		4	12	日本の自動車会社の海外における生産工場が増えている理由について、現地のニーズに応じていくという点から考えることができる。			
		5	13	複数のグラフから、各グラフの品目と、その数字の変化、全体的な変化などに注意して、必要な情報を正しく読み取ることができる。			
わたしたちの生活と工業生産	3	1	14	日本の貿易の変化について、年度と品目の数字に注意して正しく読み取ることができる。			
		2	15	おもな工業地域、工業地帯が、「太平洋ベルト」を中心に広がっている理由について、原材料の輸入や製品の輸出という貿易の観点から考えることができる。			
わたしたちの生活と情報	4	1	16	放送局で働く人は、相手のことを考えて情報を収集したり、発信した情報に対して責任をもちたりすることを大切にしていることがわかっている。			
		2	17	新聞社や放送局において、情報を伝える人々の仕事の様子がわかっている。			
		3	18	新聞社や放送局など、情報を伝える仕事が決った役割と、そこでの工夫や努力を結び付けて考えることができる。			
		4(1)	19	情報を発信する各種メディアの特徴を理解し、グラフから選択することができる。			
		4(2)	20	コマーシャル等の情報を受ける側の立場として、その情報の必要性を自分自身で判断するなど、大切にすべきことを考えることができる。			
					/ 6	/ 7	/ 7

今後の学習に向けて 自分ががんばりたいところに を付けたり、下線を引いたりしましょう。

「思考・判断」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> 「どのような点から考えるとよいか」「考えのもとになることは何か」に注意して自分の考えをもち、仲間の考えと聞き比べ、同じことや違っていることをはっきりさせながら、考えをふくらませていく話し合いに取り組みましょう。 自分の考えをノートに書くようにし、どのように考えが変わったのか、自分の生活に生かしていけることは何かを大事にしながらまとめていきましょう。 家庭においては、新聞やテレビニュースなどを读んだり見たりする中で、自分の考えや感想をまとめ、家の人と話し合ってみましょう。
「観察・資料活用・表現」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> 資料やグラフを活用するときには、「タイトル」「あらわしている数値」「資料中の大事な言葉」「資料の中の人々の様子」「全体的な変化と部分的な変化」などの視点から、読み取るようにしましょう。 調べたことを図やグラフ、表などにあらわし、方法を工夫し、仲間にわかりやすく伝えるようにしましょう。 家庭においては、新聞や雑誌にのっている写真から、何を示したものであるかタイトルを考えたり、外出先の場所や行き方、おおよそのきよりを地図で確かめたりしてみましょう。
「知識・理解」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> 見学したことや調べたことをノートにまとめて書いたり、図にあらわしたりするようにしましょう。そのときに、見出しをつけたり、順序を矢印を使ってあらわしたり、大切なことを線で囲んだりすることなどの工夫をしてみましょう。 家庭においては、学習後、ぎ問に思ったことについて、地域の図書館や施設、インターネットなどを活用して、自分から進んで調べましょう。